

職員の仕事と子育ての両立に対する意識及び実態調査（結果）

調査期間：平成28年1月22日～2月2日

対象者：全職員（派遣職員・特別休暇取得中の職員を除く）282人

回答者数：277（回収率98%）

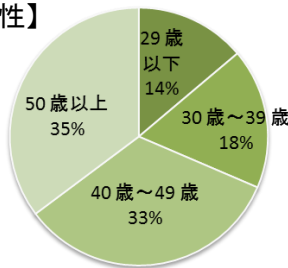
問1 性別

	26年度	27年度
男性	155	159
女性	115	118

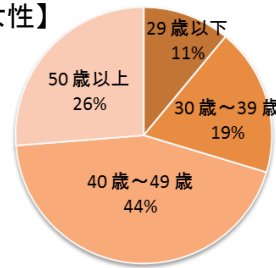
問2 年齢

	29歳以下		30歳～39歳		40歳～49歳		50歳以上	
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
男性	23	22	27	28	54	53	51	56
女性	12	13	21	22	53	52	29	31

【男性】



【女性】



問3 職

	1. 係長級以上		2. 1以外の職	
	26年度	27年度	26年度	27年度
男性	77	80	78	79
女性	20	24	95	94

問4 「男性職員」が育児休業の取得を促進するために取り組む必要があると思われる事項（複数回答）

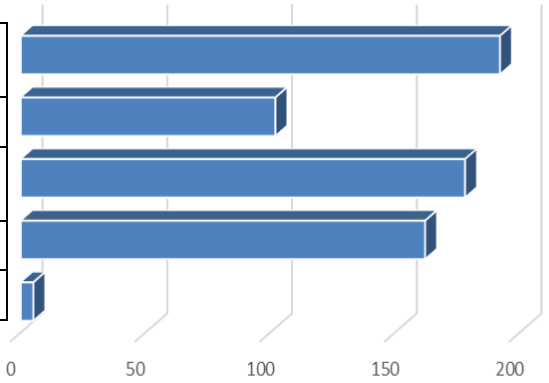
事項	回答数
1 業務遂行体制の工夫・見直し	145
2 職場の意識改革	221
3 休業期間中の経済的支援の拡大	163
4 育児休業等の制度の内容に関する情報提供	64
5 育児休業経験者の体験談等に関する情報提供	23
6 休業者に対する職場の状況に関する情報提供	47
7 職場復帰時の研修等の支援	40
8 その他	18

※その他

- 男性の意識を変える
- 人員増
- 取得が当たり前という認識が必要
- 男性の育児・家事のスキルアップ
- 取得期間を分割可にする
- 昇給等に差をつけないようにする（★昇給回復措置があるため、差はつきません）

問5 「男性職員」が育児休業を取得する際に障害となる事項（複数回答）

1	業務の遂行に支障がでる（職場に迷惑をかける）こと	192
2	昇給等に差がつくこと	102
3	周囲に前例がなく職場の理解が得にくいこと	178
4	経済的に厳しくなること	162
5	その他	5

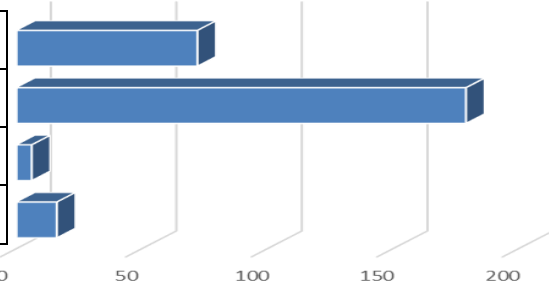


※その他

- 育児と家事の専門能力不足
- 年配の方で、男性は家事・育児はしないという意識が強い人がいること

問6 「男性職員」が育児休業を取得することに対して、どのように思いますか

1	積極的に取得すべき	72
2	職場の理解が得られれば取得してもよい	179
3	育児休業は取らない方がよい	6
4	その他	16



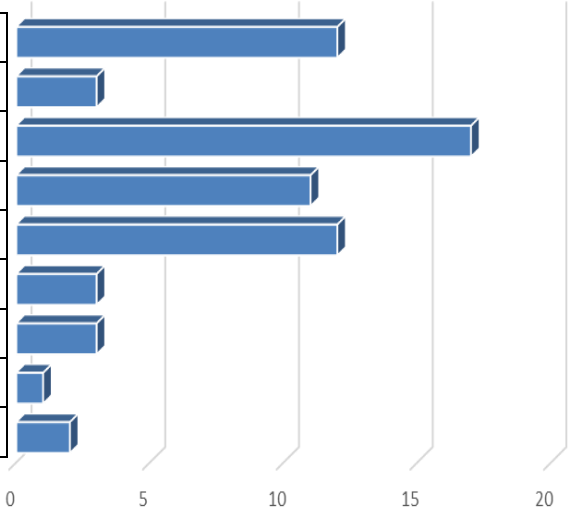
※その他

- 本人が取得を希望すればそうすればよい。
- 取得してよいか条件を理解してとる必要がある。
- 自分にはスキルがないと思うので、育児参加のための休暇を充実した方がいい。
- 父が母以上に子育てできるならとってもよい（母がベスト）。
- 人員が不足していて取得できる状況にない。
- 現実的にごく一部のしか取得できないと思うので、不公平性から制度廃止にして欲しい。

問7 あなたは育児休業を取得したいと思いますか（複数回答）

※男性職員で3歳未満のお子さんがある方、また、今後お子さんが生まれる予定のある方が回答

1	妻の負担を軽減するため取得したい	12
2	育児に参加してみたいので取得したい	3
3	職場で了解を得られれば取得したい	17
4	家族からの要望があれば取得したい	11
5	業務の遂行に支障が出るので取得しない	12
6	育児は妻に任せるので取得しない	3
7	ほかの休暇制度で対応できるので取得しない	3
8	わからない	1
9	その他	2



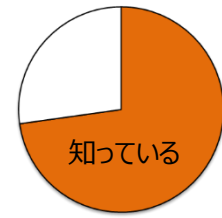
※その他

- 経済的に支援を受けられれば取得したい。
（★共済組合の給付制度があります。育児休業開始から180日目までは標準報酬の日額の67%×日数分を支給し、181日目からは50%となります。）

問 8 「妻の分娩休暇」という制度を知っていますか。

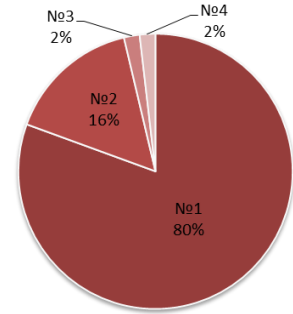
	26年度	27年度
知っている	173 (71%)	198 (73%)
知らなかった	71 (29%)	74 (27%)

知っている 2%UP



問 9 部下職員等が妻の分娩休暇を申し出たとき、どのように思いますか

	26年度	27年度
1 積極的に取得して欲しい	79 (79%)	87 (80%)
2 取得は権利なのでやむを得ない	18 (18%)	17 (16%)
3 業務が繁忙であるときには取得して欲しくない	2 (2%)	2 (2%)
4 できれば取得して欲しくない	0	2 (2%)
5 その他	1 (1%)	0

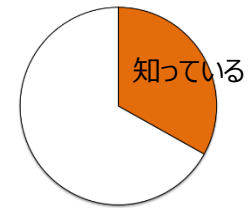


育児に関する諸制度について

問 10 「育児参加休暇」という制度を知っていますか。

	26年度	27年度
知っている	80 (30%)	91 (33%)
知らなかった	189 (70%)	184 (67%)

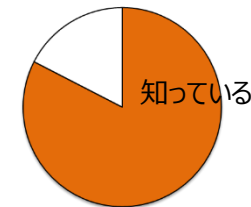
知っている 3%UP



問 11 「子の看護休暇」という制度を知っていますか。

	26年度	27年度
知っている	210 (78%)	227 (83%)
知らなかった	59 (22%)	48 (17%)

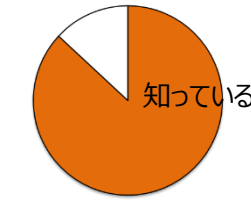
知っている 5%UP



問 12 「育児時間」という制度を知っていますか。

	26年度	27年度
知っている	221 (82%)	239 (87%)
知らなかった	48 (18%)	36 (13%)

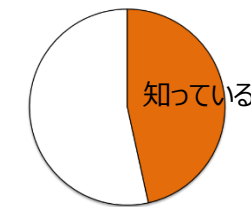
知っている 5%UP



問 13 「育児部分休業」という制度を知っていますか。

	26年度	27年度
知っている	93 (35%)	128 (47%)
知らなかった	176 (65%)	147 (53%)

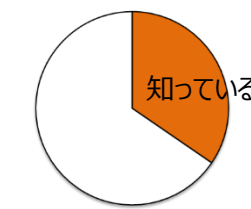
知っている 12%UP



問 14 「育児短時間勤務」という制度を知っていますか。

	26年度	27年度
知っている	67 (25%)	95 (35%)
知らなかった	202 (75%)	180 (65%)

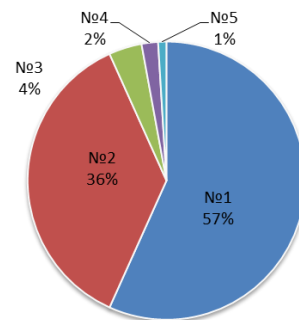
知っている 10%UP



問 15 部下職員等が、問 10 から問 14 にある育児に関する諸制度の

利用を申し出たとき、どのように思います（ました）か。

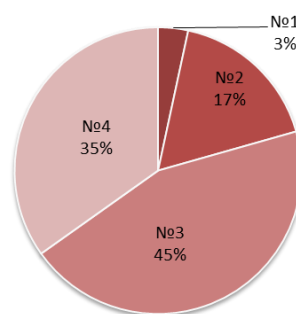
	26 年度	27 年度
1 積極的に利用して欲しい	52 (52%)	59 (57%)
2 利用することは権利なのでやむを得ない	41 (41%)	38 (36%)
3 業務が繁忙であるときには利用して欲しくない	3 (3%)	4 (3%)
4 できれば利用して欲しくない	0	2 (2%)
5 その他	4 (4%)	1 (1%)



年次有給休暇（年休）の取得について

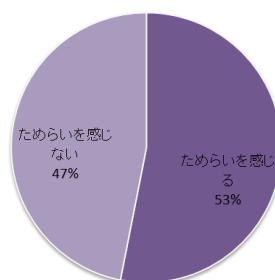
問 16 年次休暇を取得する方針

	26 年度	27 年度
1 なるべくたくさん休む	10 (4%)	9 (3%)
2 数日の余裕はみて、たくさん休む	33 (13%)	46 (17%)
3 周りの人が休む程度に休む	126 (49%)	119 (45%)
4 基本的には休まない	87 (34%)	93 (35%)



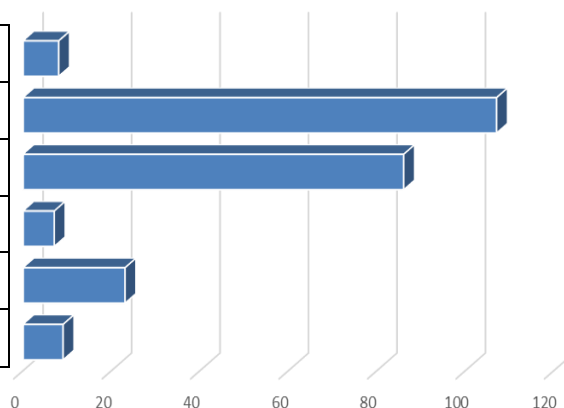
問 17 年休を取得することにためらいを感じますか。

	26 年度	27 年度
ためらいを感じる	139 (54%)	146 (53%)
ためらいを感じない	119 (46%)	129 (47%)



問 18 ためらいを感じる理由（複数回答）

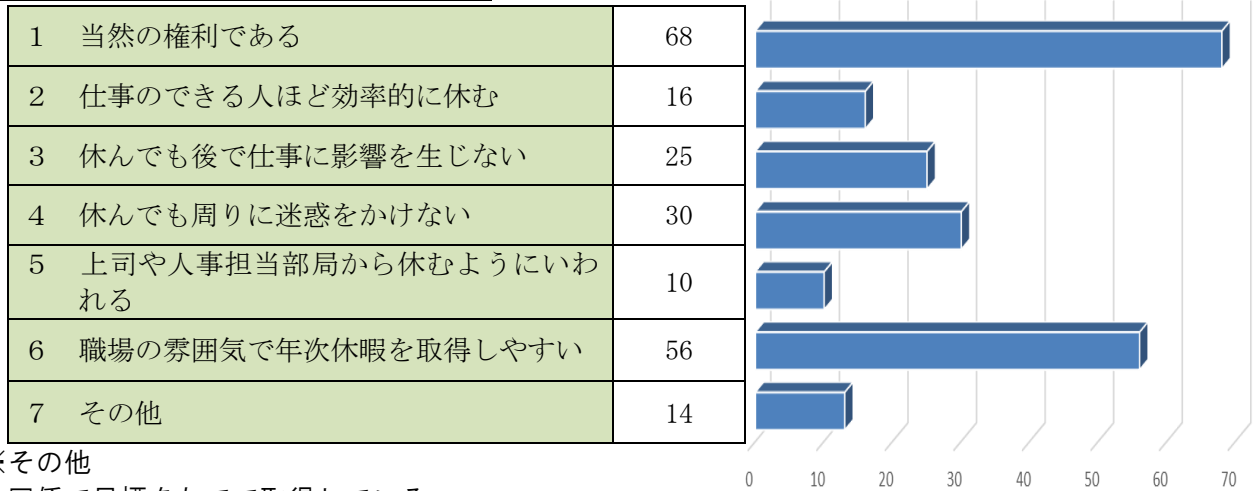
1 昇格や査定に悪い影響がある	8
2 みんなに迷惑がかかると感じる	107
3 後で多忙になる	86
4 上司がいい顔をしない	7
5 職場の雰囲気取得しづらい	23
6 その他	9



※その他

- 振替休暇の消化が優先で年休取得が難しい。
- 仕事が忙しいため。
- 人員が少ないので。
- 休む理由を伝えなければならない気がする。
- 子供の病気等で残しておきたい。
- 窓口があるため都合よく休めない。

問 19 ためらいを感じない理由（複数回答）

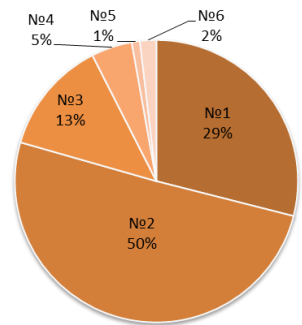


※その他

- 係で目標をたてて取得している。
- 休まないように心がけているから、やたらに休んでいる訳ではない。
- 仕事に支障ないように休んでいる。 休む必要があるから。

問 20 部下職員等の年休の取得について、どのように思いますか。

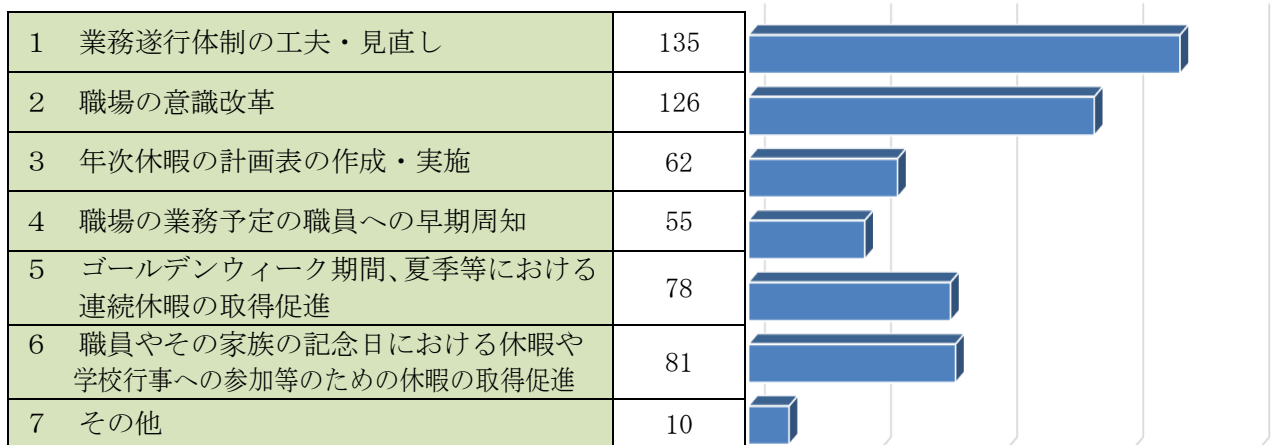
	26 年度	27 年度
1 積極的に取得して欲しいし、取得を促している	29 (30%)	31 (29%)
2 取得して欲しいが、特に取得を促してはいない	52 (53%)	54 (50%)
3 取得は権利なのでやむを得ない	11 (11%)	14 (13%)
4 業務が繁忙であるときには取得して欲しくない	5 (5%)	5 (5%)
5 できれば取得して欲しくない	0	1 (1%)
6 その他	1 (1%)	2 (2%)



※その他

- 業務に支障がない範囲で自ら判断し取得すべき。

問 21 休暇の取得を促進するために取り組む必要があると思われる事項（複数回答）

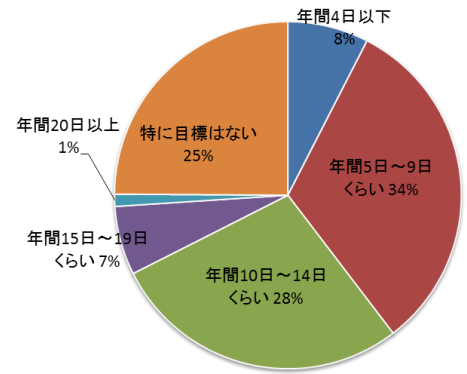


※その他

- 本人の意識を変える。 業務量に見合った人員配置。
- 冬休みや春休みを実施する（有休取得の奨励として各課で実施）
- 振替休暇の改善を図ること。 他課から依頼される業務の廃止。 上司の意識改革

問 22 年休の取得目標

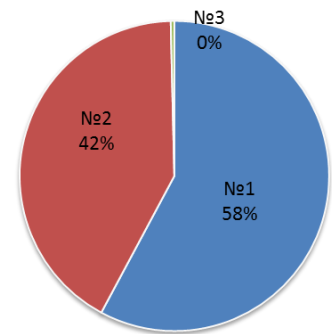
	26 年度	27 年度
年間 4 日以下	18 (7%)	20 (8%)
年間 5 日～9 日くらい	86 (34%)	85 (34%)
年間 10 日～14 日くらい	70 (28%)	74 (28%)
年間 15 日～19 日くらい	18 (7%)	17 (7%)
年間 20 日以上	2 (1%)	3 (1%)
特に目標はない	59 (23%)	66 (25%)



超過勤務について

問 23 超過勤務についての考え方

	26 年度	27 年度
1 できるだけ超過勤務をしない	125	155
2 仕事の状況に応じて超過勤務をする	106	112
3 周りの人程度に超過勤務をする	4	1
4 超過勤務を減らすことは考えていない	0	0

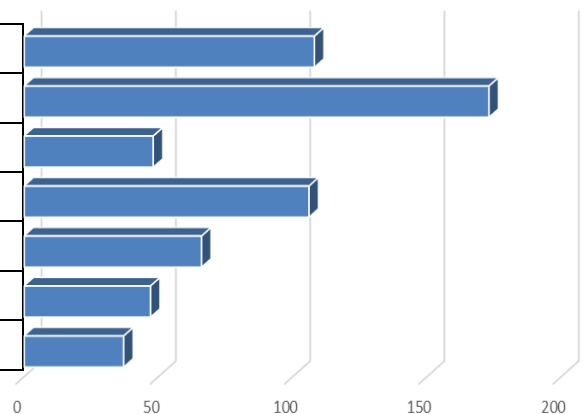


問 24 超過勤務時間数は、昨年と比較して減りましたか

	26 年度	27 年度
減った	37 (16%)	55 (20%)
増えた	58 (25%)	74 (28%)
変わらない	135 (59%)	138 (52%)

問 25 超過勤務を減らすために効果的と思われる方法（複数回答）

1 超過勤務を減らす、職場全体の雰囲気づくり	108
2 事務の簡素化、合理化	173
3 定時退庁日の強化	48
4 個々の職員の心がけ	106
5 上司が指示を的確にする	66
6 上司が率先して帰る	47
7 その他	37



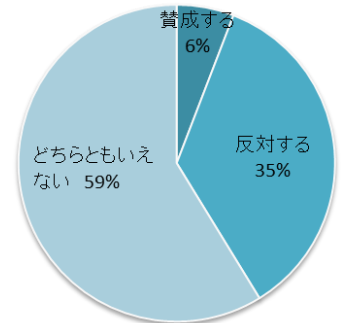
※その他

- 職務に専念し、無駄な時間をなくす工夫をする。
- 誰も超過勤務を望んでいない。業務に対するプライド・責任感から勤務している。
- スケジュール管理。□業務量を平準化する。□人員増。
- 業務量に見合った人員配置。
- 長時間労働は悪癖という認識をもつ。残業は仕事がうまくできていないからという自覚を持つ。
- 上司が残って時間外業務の内容を把握する。

その他について

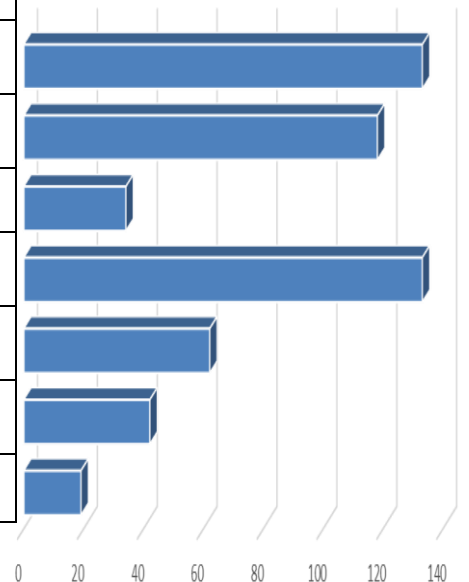
問 26 男は仕事、女は家庭という考え方に賛成しますか。

	賛成する		反対する		どちらともいえない	
	26 年度	27 年度	26 年度	27 年度	26 年度	27 年度
男性	12	13	44	48	80	97
女性	9	3	47	49	47	64
合計	21	16	91	97	127	161



問 27 職場において女性が活躍するために課題だと思うもの（複数回答）

	男性	女性	合計
1 働く時間に柔軟な制度がない（フレックスタイム、テレワーク等）	77	56	133
2 育児・介護・家事などに配偶者の協力が少ない	61	57	118
3 出産・育児に対しての職場の理解が低い	22	12	34
4 出産・育児に一定の時間制約があることを前提に職場の人員配置がされていない	64	69	133
5 役職に登用されている女性職員が少ない	37	25	62
6 同世代の男性職員に比べて女性職員の育成が遅れている	20	22	42
7 その他	11	8	19



※その他

- 女性自身が意識を変えること。
- 本人のやる気があるかないかだ。
- 男性に給料を多く出し、専業主婦が増え子供が安心して暮らせるようにしてほしい。
- 男性・女性に向いている仕事があると思うので、適材適所で配置することだと思う。家庭や育児がそこまで問題になるものでもないと思う。
- 出産・育児をおこなう女性を賞賛する。
- 今後は介護に対する制度拡充も必要。母親以外に面倒を見てくれる人が他にいればいいというものではない時もある。その人の実情に合わせた働き方ができるようになればいい。
- このアンケート自体男女を区別（差別）している。
- 人事そのものが男性優位。子育てしていてもきちんと評価してほしい。
- 子育てと女性活躍は相反するもの。
- 休暇制度に対する意識改革（自分の頃は休まず頑張ったというのをなくす。）
- 男性の育児・介護・家事に対する意識改革。
- 意欲ある女性を積極的に登用する。
- 女性全員が登用されなくても活躍することはできる。
- 女性主任の存在も重要で、職場の雰囲気や仕事の進め方が違ってくる。
- 女性が活躍しようと思っているのが明確でない。
- 活躍とはどういうことか。仕事量のことなら男性と同じ量をこなしている。女性の意識の問題だと思う。

職員の仕事と子育ての両立に関するアンケート調査

職員の仕事と子育ての両立に対する意識を調査し、平成27年4月に策定した南陽市特定事業主行動計画の見直しの参考にします。所属ごとに取りまとめいただき、**2月2日（火）**まで総務課にご提出ください。

問1 あなたの性別

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年齢

- 1 29歳以下 2 30歳～39歳 3 40歳～49歳 4 50歳以上

問3 あなたの職

- 1 係長級以上 2 1以外の職

育児休業の取得についてお伺いします

－育児休業制度とは－

子どもが3歳に達する日まで、父母のどちらかが1回ずつ育児休暇を取得できるようにして、仕事と家庭の両立を支援する制度です。

休業中の所得保障については、市町村職員共済組合から育児休業手当金として育児休業開始から180日目までは標準報酬の日額の67%、それ以降は50%が支給されます。ただし、育児休業手当金の支給対象期間は、育児休業の対象となる子が1歳に達するまでの間となっています。

問4 「男性職員」が育児休業の取得を促進するために取り組むことが必要と思われる事項として当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 業務遂行体制の工夫・見直し
- 2 職場の意識改革
- 3 休業期間中の経済的支援の拡大
- 4 育児休業等の制度の内容に関する情報提供
- 5 育児休業経験者の体験談等に関する情報提供
- 6 休業者に対する職場の状況に関する情報提供
- 7 職場復帰時の研修等の支援
- 8 その他（ ）

問5 「男性職員」が育児休業を取得する際に障害となる事項として、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 業務の遂行に支障がでること（職場に迷惑がかかる）
- 2 昇給等に差がつくこと
- 3 周囲に前例がなく職場の理解が得にくいこと
- 4 経済的に厳しくなること
- 5 その他（ ）

問6 「男性職員」が育児休業を取得することに対して、どのように思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 積極的に取得すべき
- 2 職場の理解が得られれば取得してもよい
- 3 育児休業は取らない方がよい
- 4 その他（ ）

※問7は、男性職員で3歳未満のお子さんがいる方、また、今後お子さんが生まれる予定のある方（自己判断）にお伺いします。

問7 あなたは育児休業を取得したいと思いますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 妻の負担を軽減するため取得したい
- 2 育児に参加してみたいので取得したい
- 3 職場で了解を得られれば取得したい
- 4 家族からの要望があれば取得したい
- 5 業務の遂行に支障が出るので取得しない
- 6 育児は妻に任せるので取得しない
- 7 ほかの休暇制度で対応できるので取得しない
- 8 わからない
- 9 その他（ ）

妻の分娩休暇の取得についてお伺いします

問8 あなたは、「妻の分娩休暇」という制度を知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

－妻の分娩休暇とは－

配偶者が出産する場合において、職員の子の養育その他の家事補助又は官公庁への届出等を行うのに必要な時間を特別休暇として取得できる制度です。出産のために入院する等の日から、出産後2週間までの期間に取得できます。なお、取得日数は3日以内です。

※問9は、係長級以上の方にお伺いします。

問9 あなたは部下職員等が妻の分娩休暇を申し出たとき、どのように思います（ました）か。
当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 積極的に取得して欲しい
- 2 取得は権利なのでやむを得ない
- 3 業務が繁忙であるときには取得して欲しくない
- 4 できれば取得して欲しくない
- 5 その他（ ）

育児に関する諸制度についてお伺いします

問10 あなたは、「育児参加休暇」という制度を知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

－育児参加休暇とは－

配偶者が出産する場合において、産前6週間前から産後8週間を経過する期間において、出生した子、又は小学校就学前の上の子の養育のために特別休暇として取得できる制度です。なお、取得日数は5日以内です。

問11 あなたは、「子の看護休暇」という制度を知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

－子の看護休暇とは－

小学校就学前の子を養育する職員が、当該子の負傷又は病気により看護を行う場合に特別休暇として取得できる制度です。なお、取得日数は子1人につき一年において5日以内、2人以上は10日以内です。

問 18 ためらいを感じる理由として、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 昇格や査定に悪い影響がある
- 2 みんなに迷惑がかかると感じる
- 3 後で多忙になる
- 4 上司がいい顔をしない
- 5 職場の雰囲気取得しづらい
- 6 その他（ ）

問 19 ためらいを感じない理由として、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 当然の権利である
- 2 仕事のできる人ほど効率的に休む
- 3 休んでも後で仕事に影響を生じない
- 4 休んでも周りに迷惑をかけない
- 5 上司や人事担当部局から休むようにいわれる
- 6 職場の雰囲気年次休暇を取得しやすい
- 7 その他（ ）

※問 20 は、係長級以上の方にお伺いします。

問 20 あなたは部下職員等の年休の取得について、どのように思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 積極的に取得して欲しいし、取得を促している
- 2 取得して欲しいが、特に取得を促してはいない
- 3 取得は権利なのでやむを得ない
- 4 業務が繁忙であるときには取得して欲しくない
- 5 できれば取得して欲しくない
- 6 その他（ ）

問 21 休暇の取得を促進するために取り組むことが必要と思われる事項として、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 業務遂行体制の工夫・見直し
- 2 職場の意識改革
- 3 年次休暇の計画表の作成・実施
- 4 職場の業務予定の職員への早期周知
- 5 ゴールデンウィーク期間、夏季等における連続休暇の取得促進
- 6 職員やその家族の記念日における休暇や学校行事への参加等のための休暇の取得促進
- 7 その他（ ）

問 22 あなたの年休の取得目標はどれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 年間4日以下
- 2 年間5日～9日くらい
- 3 年間10日～14日くらい
- 4 年間15日～19日くらい
- 5 年間20日以上
- 6 特に目標はない

超過勤務についてお伺いします

問 23 あなたの超過勤務についての考え方として、当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 できるだけ超過勤務をしない
- 2 仕事の状況に応じて超過勤務をする
- 3 周りの人程度に超過勤務をする
- 4 超過勤務を減らすことは考えていない

問 24 あなたの超過勤務時間数は、昨年と比較して減りましたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 減った
- 2 増えた
- 3 変わらない

問 25 超過勤務を減らすために効果的と思われる方法について、当てはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 超過勤務を減らす、職場全体の雰囲気づくり
- 2 事務の簡素化、合理化
- 3 定時退庁日の強化
- 4 個々の職員の心がけ
- 5 上司が指示を的確にする
- 6 上司が率先して帰る
- 7 その他（ ）

その他についてお伺いします

問 26 男は仕事、女は家庭という考え方に賛成しますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 賛成する
- 2 反対する
- 3 どちらともいえない

問 27 女性活躍推進法により、女性が活躍できる環境づくりへの取り組みが求められています。職場において女性が活躍するために課題だと思うものすべてに○をつけてください。

- 1 働く時間に柔軟な制度がない（フレックスタイム、テレワーク等）
- 2 育児・介護・家事などに配偶者の協力が少ない
- 3 出産・育児に対して職場の理解が低い
- 4 出産・育児に一定の時間制約があることを前提に職場の人員配置がされていない
- 5 役職に登用される女性職員が少ない
- 6 同世代の男性職員に比べて女性職員の育成が遅れている
- 7 その他（ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。